

平成25年3月8日

第108号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



ハナネコノメ（東京都八王子市）

（撮影者：東京神奈川署 森林保護委員 宮入芳雄氏）

生物多様性の保全に向けて「溪畔林再生のための施業技術の確立」

関東森林管理局 森林技術センター

私と国有林「自然を畏れ、自然と折り合う謙虚さ」

静岡県西部猟友会長 伊藤政夫氏

生物多様性の保全に向けて 「溪畔林再生のための施業技術の確立」

森林技術センター



水際まで植栽されたスギ

は尾根筋から溪畔の水際までスギなど針葉樹の植栽が行われ、単一の一斉人工林となっており、森林の生物多様性の低下が危惧されるところです。

森林技術センターは、茨城森林管理署管内の大北川の両岸に試験地を設定し、溪畔にある針葉樹人工林において抜き伐り等を実施し、水際に残存する広葉樹を種子源として天然更新を促進させ、溪畔林を再生する技術開発に取り組んでいます。

近年、森林の公益的機能の発揮がより一層求められ、生物多様性の確保の観点から、水際に成立する溪畔林等の役割が再認識されています。溪畔等の水際は、野生生物の生息・移動経路などの生物多様性の保全に重要な役割を担っており、そこに成立する森林は多様な種で構成されています。



モデルとする溪畔林（試験地上流）

平成17年度に同一林小班の間伐に併せて伐採率を変えて抜き伐りを実施し、開空度（空が見える割合）最小11・3割、最大22・6割の5箇所のプロットにおいて、更新樹種の発現本数及び樹高の推移等を調査してきました。

この調査の結果、低い伐採率・開空度でも更新木の発現が確認されるところともに、抜き伐り直後の開空度20割前後において良好な樹高成長が確認されました。

全てのプロットの上層部は先駆種であるオオバアサガラが優先しています。

また、2カ所のプロットでは同じく先駆種であるヤマハンノキが顕著な樹高成長をみせ、抜き伐り後の7年で6割を超えています。



樹高6割超のヤマハンノキ

間伐実行は、溪畔林を再生する機会でもあり、溪畔区域においては母樹となる広葉樹を保全し、植栽木については強めの抜き伐りを行う必要があります。

また、抜き伐りにより光環境を改善しても、伐採木が残置されると、種子の着床を妨げることから、伐採木は林外に搬出するなど残材を整理することが望ましいと考えられます。昨年、学識経験者等からなる専門委員会・技術開発委員会を経て、今後の溪畔林再生のための技術開発の



技術開発委員会

（平成24年12月18日）

取り組みについて決定いたしました。現在の先駆種主体の樹種群から、今後どのような林型に移りかわるのか。目標林型である高木性の広葉樹2次林への誘導は可能か。継続的に調査を続け、経過を把握していきたいと考えています。

今後も森林技術センターは、生物多様性の保全機能を含めた公益的機能がより一層に発揮される森林を、効果的かつ着実に造成するための森林づくりの技術開発に取り組んでいきます。

小笠原における固有動物の保護活動

NPO法人小笠原自然文化研究所 理事長 堀越 和夫



2000年の春、私を含めた3名の小笠原在住の調査研究者によって、NPO法人小笠原自然文化研究所は設立されました。

海洋島として独特な進化を遂げた小笠原諸島の生態系は、戦前からこれまで多くの内地の調査機関が入って研究が進みましたが、論文や標本などは島内には残っておらず、島民がこれらの情報を知ることができない状態でした。

このため、小笠原の自然環境と文化的な情報を収集及び管理すること（調査研究）、地域の人々に島の情報を伝えること（情報発信）、これらの情報を元に保全活動を進めること（保全活動）の3本を目的に、当研究所は活動を始めました。

調査研究では、絶滅危惧種の動物たちの生息状況を南北300キロメートルに広がる様々な島々にわたって調べています。

海鳥類では、無人島でアホウドリ類の繁殖状況と標識装着を進めており、クロアシアホウドリの繁殖場所と繁殖数が拡大してきている様子が判ってきました。地中営巢性のミズ

ナギドリ類の分布・生態調査を初めて着手して、種毎の繁殖スケジュールが判ってきました。海鳥調査を進めていくことで、父島列島の東島が世界でも2ヶ所しか確認されていないセグロミズナギドリの繁殖地であることが判明しました。

現在、国有林との協定によるモデルプロジェクトの森「東島森林性海鳥の地」として、この貴重な海鳥集団繁殖地のモニタリングと保全活動を進めています。



クロアシアホウドリ

また、小笠原諸島の固有亜種であるアカガシラカラスバトの生態調査を進めており、これまでに地上に巣をつくり年に数回繁殖すること、島毎に実なりが違う木の実を求めて180キロメートル以上離れた島々を移動することなどが判りました。

これらの調査で、外来動物のノネコやクマネズミが小笠原の鳥類を捕食するなど大きな脅威になっていることが明らかになり、現在、無人島におけるクマネズミ駆除と、有人島におけるノネコ排除に活かされています。

ノネコ対策では、島内の全ての行政機関（国有林、環境省、東京都、小笠原村）と当研究所で構成される「小笠原ネコの連絡会議」が、捕獲



鳥類の脅威となるノネコ

したノネコを引き取って順化訓練する東京都獣医師会と連携しながら、これまで300頭ほどを内地搬送しています。昨年夏期にはアカガシラカラスバトの若鳥が40羽以上も出現し、保全効果が見え始めているところ です。小笠原唯一の哺乳動物であるオガサワラオオコウモリや、河川や海の水生動物などの保全調査も進めており、外来樹種の駆除に伴う森林修復事業などの計画に情報提供しています。

最後に、小笠原の動物たちを観察すると、警戒心が大変薄く人間を見ても逃げない動物が多いことが判ります。200年前まで人為的影響がなく、陸上に捕食動物がいない環境に適応してきたせいかもしれません。このような小笠原の自然環境を、いつまでも残して行ければと切に思います。



オガサワラオオコウモリ

民国連携した技術力を情報共有・発信する

「平成24年度森林・林業技術等発表会」を開催

計画部指導普及課



挨拶する岡田局長

関東森林管理局では、「平成24年度森林・林業技術等発表会」を前橋テルサにおいて平成25年2月26日と27日の2日間にわたって開催しました。特に、今回の発表会から、関東局管内の都県、市町村、森林組合、NPO等の民有林関係者にも幅広く参加を呼びかけ、各々の現場で取り組んでいる調査、技術開発や林業の再生に向けた試行的な活動等を関係者が広く共有し、更なる発展に結びつけ、地域林業の再生に寄与するこ



審査委員の皆様

とを目的として開催することとした。また、審査委員として森林総合研究所多摩森林科学園の吉丸園長、宇都宮大学の谷本名誉教授、東京大学農学生命研究科の白石教授にも協力して頂きました。

26日は、国有林をはじめ、県、林業事業体等が取り組んだ「森林技術部門」について13課題の発表がありました。その後、森林総合研究所野生動物研究領域域長の小泉透氏に

よる「ニホンジカ管理をめぐる課題と展望」と同チーム長の岡輝樹氏による「ツキノワグマによる樹皮剥ぎ」その被害対策の課題と展望」の特別講演が行われました。



発表の様子

27日は、前日に引き続き「森林技術」部門及び「森林ふれあい・国民の森林」部門について13課題の発表がありました。その後、森林総合研究所林木育種センター育種部長の近藤禎二氏による「森林（もり）づくりに貢献する育種の現状とエリートツリーを中心にして」の特別講演が行われました。

最後に、吉丸審査委員長からの講評で、発表全体を通して日常の業務

等で忙しい中を地域の森林・林業に対する多様な課題への対応や昨年度から本格化した林業の再生に向けた取組状況が大変上手にまとめられており、素晴らしいプレゼンテーションだったと高く評価されました。審査の結果、最優秀賞には、吾妻森林管理署の蛭間さんと吾妻森林組合の入澤さんによる「三俣森林共同施業団地の設定と実施経過について」が受賞されました。また、優秀賞として8つの課題が受賞されました。

今回の発表会は、広く森林・林業関係者に呼びかけたところ、2日間とも200人を超える参加者があり、会場は満席状態で盛会のうちに終了することができました。



発表の様子

平成24年度 森林・林業技術等発表会の受賞課題

【最優秀賞】

課題名	三俣森林共同施業団地の設定と実施経過について
発表者	吾妻森林管理署 大戸森林事務所 森林官 蛭間 敦子 吾妻森林組合 業務課 技師 入澤 富雄

【優秀賞】

課題名	めざせ業務のスリム化！ ～森林事務所のIT化に向けて～
発表者	茨城森林管理署 石塚森林事務所 森林官 堀口 剛 業務第一課 森林ふれあい係 彦田 祥子
課題名	富士山国有林におけるニホンシカの新しい捕獲手法 (誘引捕獲：ジャーブ・シューティング)の検討
発表者	静岡森林管理署 森林育成係長 漆道 真也 表富士森林事務所 森林官 佐々木 貴博 上井出森林事務所 森林官 神長 宏和 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 大橋 正孝
課題名	ヒノキ間伐・無間伐区の60年間を比較する ～収穫試験地の新たな役割～
発表者	天竜森林管理署 業務第一課 経営係長 平野 辰典
課題名	イヌワシの生息環境を保全するための森林施業について
発表者	中越森林管理署 業務課 経営係長 佐藤 信雄 経営係員 黒木 康平 新潟県イヌワシ保全研究会 代表 柳川 雅文 日中 晴子
課題名	小笠原諸島における外来植物対策 ～デジタル撮影空中写真を使用した調査方法の検討～
発表者	小笠原諸島森林生態系保全センター 生態系管理指導官 藤田 富二 日本森林技術協会 森林グループ 専門技士 野口 絵美
課題名	集約化施業及び搬出間伐に向けた准フォレスターの取り組み
発表者	茨城県 県央農林事務所 笠間林業指導所 主任 國廣 靖志
課題名	台風被害跡地における『地域の森林』再生プロジェクト
発表者	天竜森林管理署 三ヶ日森林事務所 森林官 猪股 須恵 アスモ株式会社 総務部 総務室 次席部員 鈴木 芳明
課題名	森林除染の課題と取り組み ～地域住民の安全と安心を目指して～
発表者	森林除放射性物質汚染対策センター 事業第三係長 長尾 美穂 事業第七係長 藤代 和成



小泉氏特別講演



岡氏特別講演



近藤氏特別講演



受賞者の皆さん

私と国有林

「自然を畏れ、自然と折り合う謙虚さ」

静岡県西部猟友会長 伊藤政夫



筆者(左から2人目)と仲間達



イノシシ猟

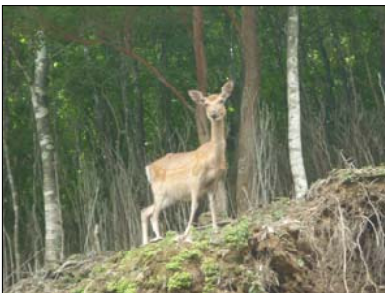
その山に囲まれたところに生まれ、父も兄も家中皆で庭まで来るイノシシ、シカを追い掛けていたものです。そんな関係で子ども頃から猟師を見て育ち知らないうちに自分も猟をするようになった。

昔のことではありますが、高校を卒業して2年間過ぎますと狩猟免許が取得できました。それから55年間一度の休みもなく毎年楽しみに時を重

静岡県西部猟友会は、静岡県の西部、東は御前崎市から太平洋岸を西に湖西市まで、北は浜松市の北部、長野県境までの7市1町の地域に14の分会800名余りの会員で、狩猟知識の普及及び狩猟道徳の向上を通じて有益鳥獣の保護、鳥獣資源の確保並びに狩猟の適正を図ることを目的に構成されています。



皮剥ぎ被害



ニホンジカ



皮剥ぎ被害

ねてきました。振り返ると随分長かったような気がいたします。でも冬が来ると何か気が落ち着かず、大勢の猟友と共に現在に至り、皆様に勧められ西部猟友会長となつたところです。

現在の猟友会の現状は、会員の高齢化が進み、登録者は平成12年度の1152名と比べると7割を割ってしまい、長期的に見れば狩猟技術の継承が途切れてしまうと危惧されます。地方にはそれぞれ独特な狩猟のノウハウがあります。山も違えば動物の習性も違います。その土地に根付いた狩猟文化があります。それらを伝えていくことも大切であると考えます。

静岡県における鳥獣被害は、農業では、イノシシ、サル、シカが多く、これら3種による被害が全体の8割強を占め、野菜・果樹の被害が7割強に及ぶ状況となっています。森林に被害を与える野生動物としては、シカ、カモシカ、ノウサギ、クマな

どが挙げられ、特にシカ・カモシカによる被害の割合が7〜8割と非常に高くなっています。

国有林とは6〜7年前から国有林への入林に際して、会員の入林届を西部猟友会が一括して取りまとめて手続きを取ることとし、西部猟友会長としても会員への指導など安全な狩猟対策に取り組んでいます。

国有林においても被害対策として柵の設置や忌避剤の塗布等を行っていますが、被害防除だけでは被害を軽減することは難しいと考えています。個体数調整のための捕獲なども考え、バランスの取れた対策を実施するなど、西部猟友会としても行政・地域住民と協力することが重要であると思慮するものです。



クマ皮剥ぎ被害

森づくり最前線

山梨森林管理事務所 甲府森林事務所 森林官 鈴木 陽子

私の勤務している甲府森林事務所は、山梨県の中央部に位置する甲府市に1178㌔、隣接する山梨市に71㌔、県の東部に位置する富士吉田市に16㌔、計1265㌔の国有林野と、官行造林（国が県有地などに造林した箇所）726㌔を管理しています。

甲府市に広がる国有林は、要害山や太良峠などをはじめとして優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察に適していることから、全域をレクリエーションの森「甲府自然休養林」として設定しています。

市民からも「裏山」の愛称で親しまれている自然休養林を含めた地域は、森林公園「武田の杜」として遊歩道等の整備が進められ、近年では武田の杜トレイルランニングレースも開催されるなど、多くの方に利用されています。

また、都市近郊という立地条件から、小中学校による森林環境教育や企業等の国民参加の森づくりの場としても広く活用されています。



太良峠から甲府盆地を望む



和田山もみじ街道の森清掃活動

昨年11月1日、和田山もみじ街道育成会と「和田山もみじ街道の森」ふれあいの森協定を締結し、県道104号沿いの和田山国有林における森林整備・保全活動を共に推進することを確認しました。協定締結後初めての活動として、11月27日に紅葉の最盛期を迎えた当



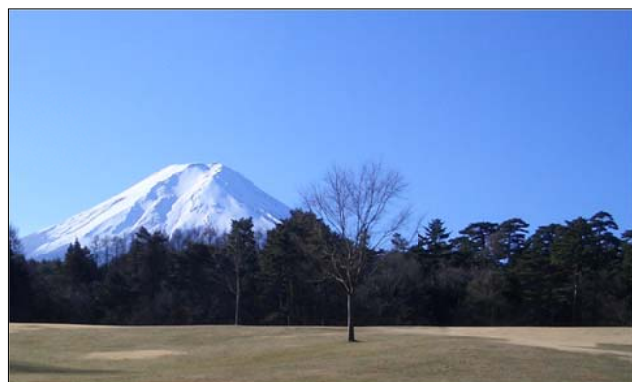
木登り体験

地区において「合同清掃活動」を実施し、不法投棄のゴミ等を回収するとともに、「もみじ」の育成を阻害するツル類の除去や沿道の落ち葉の清掃を行いました。今後とも利用者の方に気持ちよく散策していただけるよう努めていき

たいと思います。

富士吉田市にある諏訪森（すわのもり）国有林は、寛永年間（1624～1643）に植栽されたアカマツ林を起源として天然更新が繰り返された林であり、樹齢250年以上の高齢アカマツの大径木が数多く残っている貴重な植物群落を形成しています。このことから、大部分を植物群落保護林に設定しているほか、史跡名勝天然記念物にも指定されています。

諏訪森アカマツ林は、雪代（積雪で凍結した表土が急激な気温上昇や豪雨等により融解し発生する土砂災害）から下流部集落の家や畑を守るために植栽された歴史を持ち、富士北麓地域の人々の生活と密接な関係にあります。



富士山と諏訪森（パインズパークから撮影）

また、諏訪森国有林は北口本宮富士浅間神社から続く吉田口登山道沿いに位置しており、登録を目指している富士山世界文化遺産の構成資産「富士山域」の構成要素「吉田口登山道」に包含されていることもあり、適切な管理を行うため、当所では昨年度「諏訪森アカマツ林管理指針書」を作成し、具体的な保全活動に取り組んでいます。

森林官に着任し1年になろうとしています、まだまだわからないことだらけです。森林官として、これまで以上に地元との連携を密にして、国有林を適切に管理・運営し、今後も開かれた国有

林として、地域の要望に答えられるように頑張りたいと思います。

管内のいちおしスポット



碓氷第三橋梁

■ 群馬森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gunma/index.html>
〒371-8508 群馬県前橋市岩神町4-16-25
TEL:027-210-1203(代表) FAX:027-210-1248



4連橋全景



初夏のめがね橋

碓氷第三橋梁は、群馬県安中市松井田町にある碓氷川に架かる煉瓦造りの鉄道橋で、通称めがね橋と呼ばれる碓氷峠の代表的な建造物です。

この橋は4連アーチ、全長91㍎、川底からの高さ31㍎

で、使用された煉瓦は約200万個に及び、我が国最大の煉瓦づくりのアーチ橋です。

高崎駅と直江津駅を結ぶ路線（後の信越本線）のうち、未開通だった横川駅～軽井沢駅区間は、アプト式鉄道という急勾配の登山鉄道などに利用する方式を採用して、1891年（明治24年）に着工、急ピッチで工事を進め1893年（明治26年）に竣工しました。その後は信越本線の電化を経て1963年（昭和38年）に新線が建設されるまでの約70年もの間、使用されたものです。

1993年（平成5年）には「碓氷峠鉄道施設」として他の3つの橋梁等とともに、日本で初めて重要文化財に指定され、近代化遺産として保存されています。



秋のめがね橋

この、めがね橋は国道18号線（旧道）の沿線に位置し、周囲は主にケヤキやコナラ等で構成された林齢約100年の広葉樹林で、碓氷峠風景林として指定され、橋と周囲の風景が融和した優れた景観が作られています。

また、碓氷峠は童謡

「もみじ」の発祥の地と言われており、紅葉時期には色鮮やかな景色を堪能できます。

横川駅からこの橋の上を経て熊ノ平駅迄の廃線跡約6㍎が遊歩道「アプトの道」になり、橋上の手すりや国道18号へ通じる階段等が整備されています。橋の両側はトンネルで、トンネル内の散策も独特の雰囲気があり楽しいものです。

新緑、紅葉等の季節に、この遊歩道の3つの橋梁と10のトンネル等を散策し、「峠の釜めし」を食べながら、ゆっくり自然を満喫するのにおすすめです。

（群馬森林管理署 松井田森林官 田中 直己）



6号トンネルから5号トンネル



めがね橋を見上げる



アプトの道を歩く

■ ■ 編集発行所
F T 集
A E 所
X L 所
(0 (0
2 2
7 7
))
2 2
3 3
0 0
・ 1
1 1
3 3
9 5
3 8
総 関
務 東
課 森
局 林
管
理
局